

○ 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づく公開情報

研究機関名：仙台市立病院

受付番号：
研究課題名 甲状腺疾患手術の術前胸部写真にて気管偏位のみられた症例の気道確保法の検討
実施責任者（所属部局・分野等・職名・氏名）： 仙台市立病院 麻酔科・医長・安達厚子
研究期間 西暦 2017年 月（倫理委員会承認後）～ 2022年 12月
対象材料 <input type="checkbox"/> 過去に採取され保存されている人体から取得した試料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名： ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名： ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 研究に用いる情報 <input checked="" type="checkbox"/> カルテ情報 <input type="checkbox"/> アンケート <input type="checkbox"/> その他（ ） 対象材料の採取期間：西暦 2014年 11月～西暦 2022年 12月 対象材料の詳細情報・数量等：甲状腺疾患手術の術前胸部写真にて気管偏位のみられたおよそ50症例
研究の目的、意義 甲状腺疾患において全身麻酔下に手術を受ける場合、甲状腺による気管の圧排といった物理的影響は術前評価の重要なポイントである。気管に偏位や狭窄などがあった場合、気道確保が困難となるためである。画像診断などを用い気道確保困難の予測とその対応を立てることになるが、確実に予想・予防する方法は現在見出されていない。そこで、術前検査として日常行われる胸部X線写真において観察される気管偏位の程度と気道確保の方法、それが安全に施行できたかを検証する。それにより、胸部X線写真から甲状腺疾患による気道確保困難の予想とその対応を定量化する可能性を探ることを目的とする。
実施方法 (1)研究デザイン：研究者が所属する医療機関の患者の診療録等の診療情報を用いて、集計、単純な統計処理等を行う後ろ向き研究 (2)研究対象者：当院にて甲状腺疾患に対し気管内挿管による全身麻酔を受けた患者で術前胸部X線写真にて気管偏位のあった症例 (3)調査内容：患者背景、胸部X線による気管偏位の程度の評価、CTによる気管偏位の程度の評価、気道確保の方法（迅速導入、覚醒下挿管、気道確保器具の種類等）、選択した気道確保法の成否と合併症、気管偏位の程度と気道確保法およびその成否との関連 (4)倫理上の配慮点：患者の個人情報漏洩しないように使用する資料からは個人情報と切り離してデータ解析を行う。連結不可能匿名化にて発表を行う。後ろ向き研究であり患者への不利益並びに危険性はない。
研究協力への不同意 今回の研究では、皆様からとくに連絡がない場合には、診療録から得られる必要な情報を研究のために利用させていただきたいと考えています。もしこのような情報を本研究のために提供したくない方がいらっしゃいましたら、どうぞ遠慮なく担当医師までご連絡ください。なお、今回の研究に協力しないことによって、当院での診断・治療において不利益をこおむることは一切ありません。

本研究に関する問い合わせ窓口

仙台市立病院 麻酔科

研究責任者 安達厚子

麻酔科科長 筆田廣登

電話 022-308-7111